

群 教 セ	F07 - 01
	平25.251集
	中・学校図書館

# 読書に親しみ、自ら読書を進めることができる生徒を育成する中学校国語科指導の工夫 — 学校図書館の活用に向けた 学校司書及び公立図書館との連携を通して —

特別研修員 須永 真佐恵

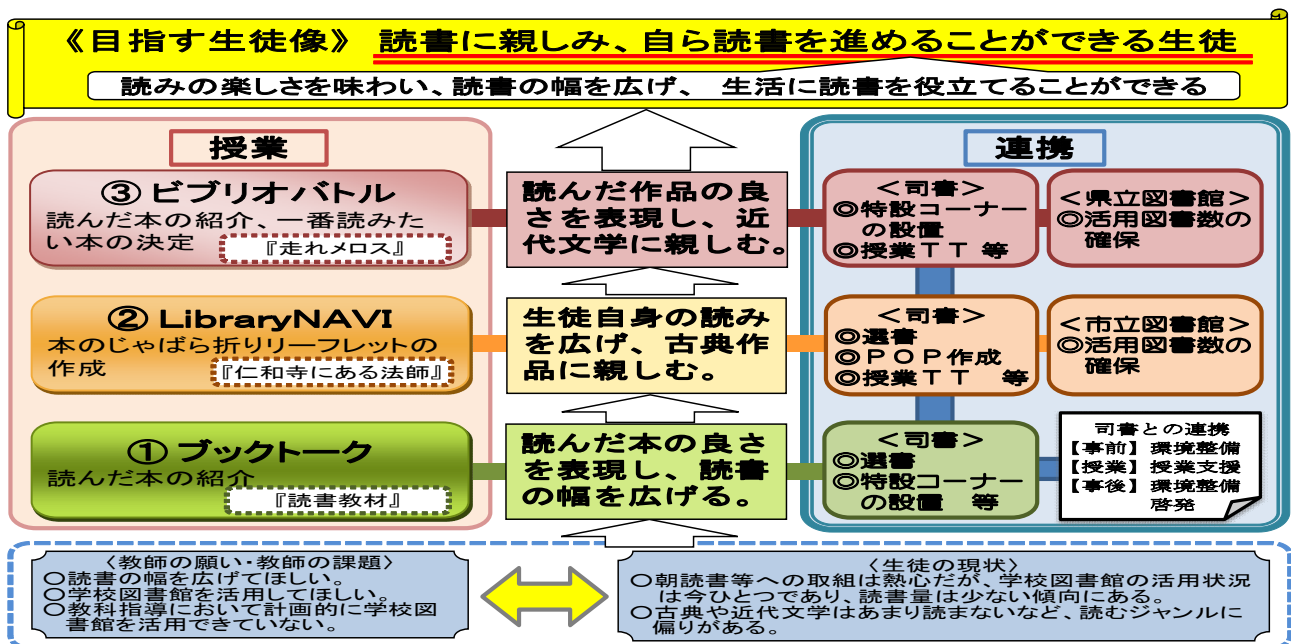
## I 主題設定の理由

本校の生徒は、朝読書には熱心に取り組んでいる。しかし、読むジャンルには偏りがあり、古典や近代文学作品にはあまり興味を示さないなど読書の幅も狭く、学校図書館の利用状況にも更なる改善が求められている。また、教師の日常的な教科指導において学校図書館を十分には活用していない現状が認められる。これらは、学校図書館にある本の魅力が生徒に周知されていない、学校図書館と授業との関連性が薄い、学校司書との連携が密でないなどが課題として考えられる。

平成25年度「学校教育の指針」では、伸ばしたい資質・能力として「読書習慣の形成や本を通して学ぶ力を身に付ける」とある。そこで、年間指導計画に学校図書館の利用を位置付け、司書や公立図書館との連携を図った授業を構想し、読書活動の充実を促す。このことが学校図書館の積極的な活用、生徒の読書への意欲付け、幅広い読書につながると考え、上記の主題を設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



### 2 授業改善に向けた手だて

単元「読書案内 学校図書館のお勧め本で『ブックトークをしよう』」（中学2年・1学期）において、ブックトークの活動を位置付け、次のような手だてを構想した。

—— 実践1における研究上の手だて ——

- 教員によるブックトークの実施、ワークシートの工夫や交流タイムの設定、司書との連携
- ・教員がブックトークを行い、概要を理解させる。
- ・ブックトークのシナリオ用のワークシートを工夫したり、交流する時間を設定したりする。
- ・司書と連携して、選書やブックトークコーナーの設置を行う。

夏休み前の読書案内の単元でブックトークを取り入れた。事前から司書と連携し、幅広いジャンルの本を選書したり、ブックトークコーナーを設置したりして、読書意欲を高めた。また、教員によるブックトークを行ったり、シナリオ用のワークシートを工夫したりした。その結果、生徒はブックトークを意欲的に行い、読んだ本のよさを表現することができた。また、ブックトークをした後に、感想などを伝え合う交流タイムを設定したことで、友達のお薦めの本に興味をもつことができた。授業後はお薦めの本を借りる生徒の姿も見られ、読書の幅を広げることや学校図書館にある本のよさに気付くことにつながることができた。

2学期は生徒が苦手意識をもつ古典に焦点を当て、「仁和寺にある法師―徒然草」において、「LibraryNAVI（「ライブラリーナビ（図書館利用者をナビゲートするじゃばら折りリーフレットのこと、以下「ナビ」）」を作成する活動を位置付け、次のような手だてを構想した。

#### 実践2における研究上の手だて

○教材文で作成したナビの活用とワークシートの作成、司書との連携、公立図書館との連携

- ・教材文を基に作成したナビを、自分が選んだ古典作品のナビの作成に活用させる。また、ナビの構成要素を整理するワークシートを作成する。
- ・司書と連携して、古典コーナーの設置、TTによる授業、選書時に参考とするPOPの作成及び作成したナビの学校図書館への展示による啓発を行う。
- ・公立図書館を利用し、活用できる図書数を充実させる。

古典作品を選ぶ際に、教師と司書が作成したPOPを参考にする生徒や、作者や作品について分からないときは司書に積極的に質問する生徒などが多数見られた。教材文でのナビの作成経験を活用させるとともに、ナビの構成要素を整理するためのワークシートを作成し、簡潔に文章を書けるように配慮したところ、自分が選んだ古典作品のナビの作成がスムーズにできた。また、公立図書館との連携による図書数の確保を通して、古典作品に十分触れる機会が拡充され、生徒たちのじっくりと落ち着いた読書を実現し、学習課題を達成することができた。完成したナビは学校図書館に展示し、他学年の生徒は大いに触発されている様子であった。

### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 成果

- 司書と連携し、選書やPOP作成、読書に関する特設コーナーの設置やTTによる授業を行うことが、学校図書館環境の整備や読書の幅を広げる働きかけにつながるとともに、公立図書館との連携により、活用図書数を増やすことで生徒の読書意欲を喚起することができた。
- 年間指導計画に位置付けられた教材を基にした読書活動を取り入れることにより、日常的な教科指導において学校図書館を活用する授業を展開することができた。

#### 2 課題

- 読書活動の選定や導入に当たっては、年間指導計画に位置付けられた教材の設定時数に配慮する必要がある。また、読書に関するより細かな生徒の実態の把握や、国語科だけでなく他教科との関連も視野に入れた上での指導計画の構想・実施が必要である。
- 司書との連携については日頃から十分な打ち合わせ時間の確保、また、公立図書館との連携については蔵書数及び内容、貸出システムの把握等に努める必要がある。

#### 3 読書活動充実のための学校図書館のさらなる活用に向けて

国語科と他教科との学校図書館の活用や司書との連携、限られた国語科授業時数の中で、身に付けさせたい能力を明確にした読書活動を意図的、計画的に設定することが大切であると考える。

#### IV 実践及び改善の実際

##### 実践 1

1 単元名 学校図書館のお薦め本で「ブックトーク」をしよう（中学2年・1学期）

##### 2 本単元及び本時について

本単元は、夏休み前の読書案内の単元において、学校図書館の本を利用したブックトークを行う活動を取り入れ、読書の楽しさを味わい、読書の幅を広げ、読んだ本のよさを表現することをねらうものである。本時は全5時間計画の第5時に当たる。今後の学校図書館の利用、そして、幅広い読書とつなげていくことをねらいとし、ブックトーク発表会及び生徒同士による感想の交流を行う。本時の研究上の手だてとして、ブックトークで扱う本の選書や特設コーナーの設置を行うなどの司書との連携、ワークシートの工夫などを構想し、次のように具現化した。

##### 3 授業の実際

ブックトーク発表会を行うまでに、次の活動を行った。

まず、ブックトークへの理解が浅く、読書の幅が決して広いとは言えない生徒たちのために、司書と連携して「いのち」「自然科学」「偉人」「社会」「スポーツ選手」「言葉」というテーマから幅広く選書を行った。

次に、概要を理解させるために教師が自らブックトークを行った。そして、学校図書館に特設コーナー（図1）を司書とともに設置し、意欲の喚起を図った。その結果、ブックトークへの理解が深まり、発表会に向けて意欲的に取り組む姿を見ることができた。また、ブックトークのシナリオを書く際、思うように作業が進まない生徒のために、導入や結びの言葉の例を載せたワークシートを用意した（図2）。これにより全員がシナリオを書くことができた。生徒の中には、教師のブックトークを参考にし、クイズなどを取り入れながら聞き手の興味を引きつける者も見受けられた。

発表会の導入では、ブックトークを成功させるための秘訣として、発表の仕方や聞き方、併せてブックトーク全体の流れを確認した。発表会では、1班を五～六人で構成し、司会者をたて、一人ずつ順番にブックトークを行った。



図1 ブックトークで活用した図書

<ヒント・見本>  
**学校図書館のお薦めの本でブックトークをしよう**  
**ブックトークワークシート2 ~シナリオ作り~**

2年 組 番 名 前 ( )

書き出し(導入)

例1：これから（テーマ）についてブックトークします。なぜ、このテーマを選んだかという...  
例2：皆さん、命について深く考えたことがありますか？毎日元気に暮らしていると、改めて命について考えたことはありませんよね・・・

<紹介する本1>

まず、最初に紹介する本は( )です。  
・著者や本の題名について  
・本の主張・あらすじ、面白い所、印象に残った所、(文や挿絵など使ってもOK!) 特色、お薦めなど。

つなぎ・・・1冊目と2冊目をつなぐ

・次の本に移れるようなつなぎの言葉を考える

<紹介する本2>

次に紹介する本は( )です。  
※<紹介する本1>に同じ

結び

以上で、僕・私のブックトークを終わります。ご清聴ありがとうございました。

図2 導入や結びの言葉の例を載せたワークシート

### ブックトークをしている様子

S1: 皆さん、普段何気なく使っている日本語ですが、何が違うと違和感をもったことはありませんか？その日本語は本当にあっているのでしょうか。そんなモヤモヤを解消するために、正しい日本語を考えられるような本を、今日は紹介します。

S2: (小声中) 導入の言い方がすごく上手。引き込まれる。ワークシートの見本例よりもいいね。

S1: まず、最初に紹介する本は、「似たもの言葉のウソ！ホント？」です。(本を見せて) この本の著者は梅津さんという人で、NHKのアナウンサーです。アナウンサーは、正しい日本語を話さなければなりません。日本語には似ているようで、違う意味の言葉がたくさんあります。例えば「～しにくい」と「～しづらい」の使い方の違い、分かりますか？

※ 下線部から、ワークシートの見本を参考に自分なりに考えている。また、教師のブックトークを参考にクイズを出して、聞き手に考えさせていることが分かる。

実際のブックトークでは緊張する生徒が多かったが、どの生徒も練習の成果を発揮していた。普段はなかなか自分の意見を言えない生徒が、生き生きと一生懸命にブックトークを行い、友達に賞賛されている姿を見ることができた(図3)。

聞き手は、紹介された本についての感想などをワークシートに記入した。そして、一人のブックトークが終わるごとに感想を交流し、友達の良いところや本の感想などを伝え合うことができた。友達の紹介した本に興味をもち、感想を述べる生徒が多く、班によっては質問が飛び交い、自分の紹介した本について熱く語る生徒もいた。紹介された本を読みたいと思う生徒が多く、授業後に本を借りていく様子を多数見ることもできた。



図3 ブックトークをしている生徒

### 感想の交流(交流タイム)をしている様子

S1: (司会者) S4さんのブックトークを聞いていかがでしたか？

一人ずつ順番に、感想や良かったところを言ってもらいます。S2君から、お願いします。

S2: 最初の本の「大五郎は天使のはねをつけた」の続きがすごく気になる。本を見せて。(本を読もうとする)

S3: 続きを言わないから、私も知りたいと思った。二冊目の「補聴犬」の話も良かったよね。補聴犬って初めて聞いて、勉強になった。

S4: (ブックトークした生徒) どっちもいい本なので、ぜひ読んでみて。

S5: 「補聴犬ノンコ物語」では、本の紹介も良かったけど、〇〇さんの感想を言っているところがすごいと思った。

※ 下線部から、聞き手を引きつけたブックトークができていることが分かる。

感想の交流(交流タイム)をした後、振り返りカードに自己評価をし、授業の感想を発表し合った。感想としては、「自分の紹介する本のよさが相手に伝わって良かった」「ブックトーク発表会は楽しかった」「友達の紹介した本を読みたい」などの前向きな意見が多かった。

## 4 考察

- 司書と連携し、幅広いジャンルの本を選書したり、ブックトークのコーナーを設置したりしたことで、生徒の読書意欲、ブックトークへの意欲を高めることができた。
- 実際に教員がブックトークの見本を見せたり、シナリオ用のワークシートを工夫したりしたことで、生徒はブックトークを意欲的に行い、読んだ本のよさを自分なりに表現することができた。
- 感想の交流(交流タイム)を取り入れることで、友達のお勧めの本に興味をもって読む生徒もおり、読書の幅を広げることもつながった。また、学校図書館にある本のよさに気付くこともできた。

## 実践 2

1 単元名「いにしへの心を訪ねる（教材名「仁和寺にある法師－兼好法師）」（中学2年・2学期）

### 2 本単元及び本時について

本単元は、「徒然草」や他の古典作品（「枕草子」「御伽草子」「方丈記」「今昔物語集」「伊勢物語」「仮名草子」）を読み、古典作品に親しむ生徒の育成を目指すものである。本時は全8時間計画の第5時に当たる。具体的には、教師と司書のTTにより、教材文「徒然草」で作成したナビを活用し、並行読書で自分が選んだ古典作品のナビの作成を通して古典に表れたものの見方や考え方に触れ、伝えたいことをまとめる授業である。実践1を踏まえ、学校図書館の活用を積極的に促すため、本時の研究上の手だてを次のように具現化した。

### 3 授業の実際

事前に司書とともに市立図書館に行き、古典作品（現代語訳や漫画なども含む）を必要数借りてきた。そして、生徒の選書の際に参考となるよう、教師が内容を考え、司書が作成するという役割分担で古典作品のPOPを用意した（図4）。また、時代背景の分かる資料や年代別作品を展示した古典コーナーの設置、時代や作者について触れている図書の準備など、司書と連携して、環境整備を行った。

導入では、ナビの構成要素5項目（①作者や作品について、②登場人物の紹介、③あらすじ、④作者の考えについて、⑤私のお薦め）を確認するために、「徒然草」で作成した生徒のナビを掲示し、手順を具体的に説明した。生徒は作成を経験しているので、手順や書き込む項目等をスムーズに把握していた。他の生徒が選んだ古典作品について聞いたり、司書に作品を選ぶ際の生徒の様子を話してもらったりすることで、学習意欲を高めることができた。選書に悩んでいた生徒はその時を振り返り、POPがその手助けになっていたことを思い出していた。

前時の授業を振り返る様子
T：どんな古典作品を選んだのでしょうか？
S1：「今昔物語集」「徒然草」
S2：「枕草子」「御伽草子」「仮名草子」
S3：「方丈記」（選んだ作品名が出てくる。）
T：S2くんは、どうして、「仮名草子」を選んだのかな？
S2：一休さんの話がおもしろそうだったから。
T：一休さんの話はどこから？
S2： <u>先生のブックトークを聞いて・・・</u>
T：他に何を参考に選んだのでしょうか？
S4：（古典作品のある方を見て） <u>先生が作った紹介の・・・</u>
T： <u>先生たちが作ったPOPをじっと見て考えていた人もいましたね。</u>
※ <u>下線部から、選書の際、教師のブックトークや司書と連携して作成したPOPを参考にしていることが分かる。</u>

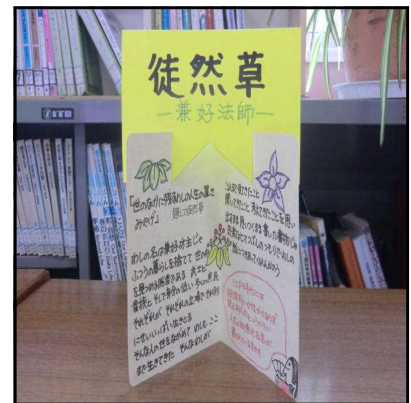


図4 古典作品のPOP

ナビの作成では、ナビの構成要素5項目をワークシート（図5）に記入していった。その際、読み手に分かりやすいナビの作成を意識させるために、文章の簡潔さにも気を付けるようにさせた。

自分が選んだ古典作品の作者について詳しく調べたい生徒は、司書にどんな本で調べたらよいの

☆私のお薦め 「どんな人にどんな時に読んでほしい？ どんなことが分かった？」 ※お薦めの理由を自分の言葉で書いてみよう！	☆作者の考え 「言いたいことは何？（現代とのつながりや自分の考えなどもOK）」	☆登場人物の紹介 「どこでどんな人？（性格などを書く）」	☆あらすじ 「時、場所は？ 誰が、どうしたの？」	☆作者名・作品について 「成立時代はいつ？ 作者はどんな人？」	☆本の題名 （作品）	☆本の名前 （名前）
---	--	---------------------------------	-----------------------------	------------------------------------	---------------	---------------

図5 ナビの構成要素5項目を整理するワークシート

かを質問していた。司書からアドバイスを受けた生徒は、ナビに必要な情報を収集し、詳しく調べることができた。また、授業後に、「鎌倉時代の暮らしについて知りたい」という生徒が司書にアドバイスを求める姿や、生徒自身が「古典コーナー」(図6)を活用している姿も見ることができた。

ナビの作成にあたり、司書(T2)に質問している様子

S : 先生、清少納言について調べたいのですが、どの本に詳しく書いてありますか。清少納言について書かれている本が見当たらないので。

T2 : 清少納言は、平安時代の人物が書かれているこの本を読むといいですよ。(歴史の本の棚から、数冊本を持ってくる)  
この中からまとめやすい本を選んでください。

S : (持ってきた本を数冊見た後) 教科書よりも詳しく載っている。  
これなら、ナビにたくさん書ける。

※ 下線部から、司書に質問して、自分の必要な情報を選んで調べていたことが分かる。



司書とのTTによる授業を行うことで、生徒の質問に答えるなどの机間支援をさらに充実させることができ、自分が読んだ古典作品のナビの作成にとっても役立った。古典コーナーの設置や司書と一緒に作成したお薦めのPOPなど、学校図書館の環境を整備することもナビの内容を深める上で有効であった。

完成したナビ(図7)を図8のように図書室に展示したところ、他学年の生徒や同学年の生徒が作品を手にとって見る姿を多く見かけた。作成した生徒たちの古典への関心だけでなく、他学年の生徒の古典への関心も深めることができた。



図6 古典コーナー



図7 生徒が作成したナビ



図8 ナビの展示

#### 4 考察

- 教材文で作成したナビを活用することで、学習課題を容易に把握することができた。
- 司書との連携(選書・POP作成・TTによる授業)を密に行い、古典コーナーの設置など学校図書館の環境整備とともに、読書の幅を広げる働きかけにより、生徒たちの読書意欲が高まった。
- 公立図書館との連携で活用図書数を増やすことにより、一人一人が充実した読書活動を行うことができ、生徒の興味・関心を喚起することができた。